

報道関係 各位

2019年5月10日
株式会社日本レースプロモーション

5月18日(土)～19日(日)
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 オートポリス
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、5月18日(土)～19日(日)の2日間、大分県 オートポリス インターナショナル レーシングコース(1周: 4.674km)において、2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 オートポリス を開催いたします。

今大会はシーズン唯一の右回りのコースに於いて、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 54周(252.396km)で争われます。

4月20日に、新型シャシー「SF19」の導入、8名の有カレキーの参戦、オーバーテイクシステムの変更など、多くの話題と期待をもって開幕した鈴鹿大会は、4度のセーフティカー導入により完走台数 12 台というフォーミュラでは稀に見る荒れたレースを、12番手からスタートしたニック・キャンディ(バンテリン チーム トムス)が、各状況を適切に読み切ったレース運びで制し、2位には、山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)、3位には、山下 健太(コンドール レーシング)が続きました。

開幕戦に続き連勝に期待が懸かるキャンディ、今季もシリーズチャンピオン獲得を狙う山本と共に、前戦、トップを走りながらも度重なるセーフティカー導入に翻弄された小林 可夢偉(カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)、アクシデントに泣かされた中嶋 一貴(バンテリン チーム トムス)や石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)らの実力者達が、本来の力を発揮しどのように巻き返しを図るのか注目です。また、初参戦ながら鈴鹿大会の予選でフロントロウを独占し、安定した速さを見せながらもトラブルによりマシンを停めた、ティーシーエス・ナカジマレーシングの牧野 任祐とアレックス・パロウや予選18番手から5位入賞を果たした坪井 翔(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)らルーキー達が、中高速系コーナーが多くアップダウンが激しいテクニカルなオートポリスでも、実力者達を抑え上位に上がってくるのか期待が集まります。

まずは金曜日のフリー走行で、ソフトとミディアムのタイム差が大きくなったタイヤを、予選・決勝を見据えどのように組み込んでくるのか? また、山本が「良く出来ている」と評した新オーバーテイクシステムを、このオートポリスでどのように戦略的に使うのか? さらに右回りのコースによる通常とは逆の左側給油やタイヤ交換など各チームのピットワーク、チーム力も見どころです。



開幕戦を制した、ニック・キャンディ(バンテリン チーム トムス)

公式予選

Q1 (20分間) 上位12台がQ2に進出。13～20位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:4.674km (右回り) × 54周 = 252.396km

最大レース時間 : 1時間30分

中絶時間を含む最大総レース時間 : 4時間

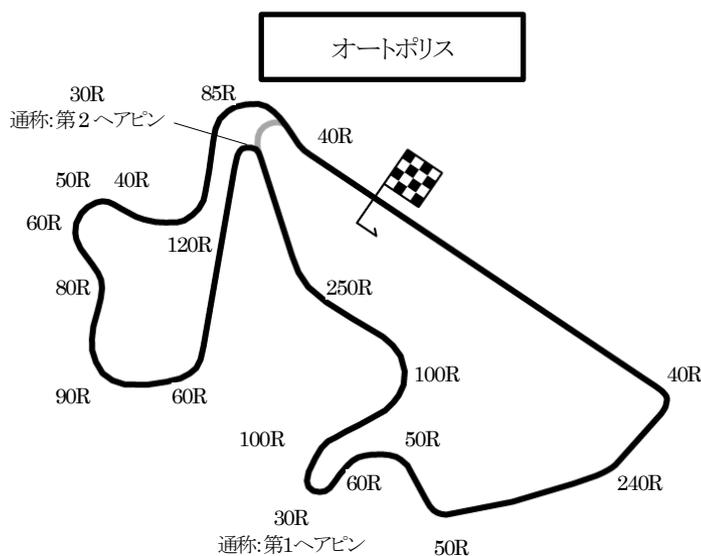
※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。

オートポリスについて

阿蘇外輪山の雄大な地形を生かした、全長4.674kmの長さを誇る国際公認コース。

ホームストレート902m、高低差52m、最大上り勾配7.2%、下り勾配10%のアップダウンの激しいテクニカルコースで、中高速系のコーナー、速いスピードで回り込むコーナーの多いコースは、攻め甲斐があるとドライバーの評価が高い。そのコースレイアウト故、タイヤの磨耗度が激しく、タイヤマネジメントも重要な課題となる。

また、日本では珍しく、ピットロードがコースの外側にあり、ピットから見るとマシンの走行方向が他のサーキットと逆になる。そのために、通常右側にある給油口は、左側へ変更となる。



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 エントリーリスト

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	1994/ 9/10	ロシア	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1999/ 6/ 8	イギリス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/ 11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozeria Team KCMG (カロツツエリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Iishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	トータル ポイント	2019/4/20-21 SUZUKA Rd.1	2019/5/18-19 AUTOPOLIS Rd.2	2017/6/22-23 SUGO Rd.3	2017/7/13-14 FUJI Rd.4	2017/8/17-18 MOTEGI Rd.5	2019/9/28-29 OKAYAMA Rd.6	2017/10/26-27 SUZUKA Rd.7
1	37	ニック・キャシディ Nick Cassidy	10	10						
2	1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	8	8						
3	3	山下 健太 Kenta Yamashita	6	6						
4	16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	5	5						
5	39	坪井 翔 Sho Tsuboi	4	4						
6	4	国本 雄貴 Yuji Kunimoto	3	3						
7	50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	2	2						
8	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1	1						
9	65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1	1						
	5	福住 仁頼 Nirei Fukuzumi	0	0						
	7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	0	0						
	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	0	0						
	17	トリスタン・シャルバンティエ Tristan Charpentier	0	0						
	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	0	0						
	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	0	0						
	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	0	0						
	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	0	0						
	38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	0	0						
	51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	0	0						
	64	アレックス・パロウ Alex Palou	0	0						

※表中ポイント数字の **太字**：優勝 下線：予選ポールポジション

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

※ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

(ルーキー：SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	トータル ポイント	2019/4/20-21 SUZUKA Rd.1	2019/5/18-19 AUTOPOLIS Rd.2	2017/6/22-23 SUGO Rd.3	2017/7/13-14 FUJI Rd.4	2017/8/17-18 MOTEGI Rd.5	2019/9/28-29 OKAYAMA Rd.6	2017/10/26-27 SUZUKA Rd.7
1	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	10	10						
2	31 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	9	9						
3	11 5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	8	8						
4	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	6	6						
5	38 39	JMS P.MJ/CERUMO - INGING (ジェームス ビーエムユーセルモインギング)	4	4						
6	50 51	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	2	2						
	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	0	0						
	17	REAL RACING (リアル レーシング)	0	0						
	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	0	0						
	19 20	ITOCHEU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	0	0						
	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーンシーエス・ナカジマレーシング)	0	0						

※表中ポイント数字の **太字**：優勝

※チームポイント：各チーム（エンタラント）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エンタラント）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 オートポリス
- 開催日程 : 2019年5月18日(土) 公式予選
2019年5月19日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : オートポリス インターナショナル レーシングコース(1周 4.674km / 右回り)
- オーガナイザー : オートポリス倶楽部
株式会社オートポリス
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
Honda ワンメイクレース事務局(HORS)
- 協力 : 株式会社ブライト
株式会社テレビ熊本(TKU)
阿蘇市
大分県
- 後援 : スポーツ庁/観光庁/大分県/熊本県/日田市/竹田市/菊池市/阿蘇市/柳川市/大津町/小国町/
南小国町/産山村/日田市教育委員会/竹田市教育委員会/菊池市教育委員会/阿蘇市教育委員会/
柳川市教育委員会/大津町教育委員会/小国町教育委員会/南小国町教育委員会/
産山村教育委員会/日田市観光協会/竹田市観光ツーリズム協会/菊池観光協会/阿蘇市観光協会/
柳川市観光協会/肥後おおづ観光協会/小国ツーリズム協会/杖立温泉観光旅館協同組合/
南小国町観光協会/産山村観光協会
- 同日開催 : TCR ジャパンシリーズ 2019 第1戦
2019年 全日本フォーミュラ3選手権 第3戦、第4戦
2019 N-ONE OWNER'S CUP Rd.4

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 オートポリス』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年も昨年度までの生放送から決勝レース当日の17時～18時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所やルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。

○放送時間 : 2019年5月19日(日)17:00～18:55

○実況 : 野崎 昌一

○解説 : 古賀 敬介

○ピットレポート : 千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今年も内容を一新し、今シーズン国内外の若手ルーキードライバーをはじめ、注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎え、新たな情報番組としてお送りします。

本田朋子の進行、乃木坂46の樋口日奈のナレーションは今年も継続。レースのレビューやニュースも含め、よりグレードアップした新生「スーパーフォーミュラGO ON!」にご期待ください。

○放送時間

第2回 : 2019年5月10日(金) 23:00～23:55 (再放送 5月12日(日) 26:00～26:55)

ゲスト : 坪井 翔、石浦 宏明、本山 哲

第3回 : 2019年6月14日(金) 24:00～24:55 (再放送 6月16日(日) 25:10～26:15)

ゲスト : 未定

○進行 : 本田 朋子

○ナレーター : 樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

尚、放送時間、放送チャンネルは予告なく変更される場合がありますので、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

第2戦 オートポリス

予選 2019年5月18日(土) 14:50～ J SPORTS 1 <生中継>

決勝 2019年5月19日(日) 13:30～ J SPORTS 1 <生中継>

【映像配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドで無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブ サイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ LetsGoRacing (Youtube Channel Livestream) (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券(2日間有効)

大人 : 4,860 円(税込)

※お車でご来場の場合は、別途駐車券が必要です。

●スーパー・プレミアム観戦券 ROYAL ROOM EAST WING

大人1名 : 32,400 円(税込)

小中学生 : 10,800 円(税込)

※駐車券込(大人券のみ)

※パドック / ピットウォーク入場可能 / 土日のお弁当 / 公式プログラム(大人券のみ) /

決勝グリッド入場(JSB1000、SF、N-ONE 決勝)

●前売2日間通し駐車券(四輪普通車)

1,620 円(税込)

●前売ピットウォーク券(2日間)

3,240 円(税込)

●前売パドック券(2日間)

5,400 円(税込)

※パドック券のみではピットウォークには参加できません。

●前売パドック・ピットウォーク券(2日間)

8,100 円(各日)(税込)

※中学生以下は入場無料(保護者同伴に限る)

●スタンダードルーム WEST WING ROYAL ROOM WEST WING(2日間)

3,240 円(税込)

※販売定数に達し次第終了

詳しくは、レースチケットのご案内 (<https://autopolis.jp/ap/watch/super-2and4/s2and4-ticket/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル

e-mail:media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(イギリス、オーストリア、スペイン、ニュージーランド、フランス、ロシア)7名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	PP
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。
(ルーキー:SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。
同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。
チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯(予定)
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、2018年までのSF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2016 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

オーバーテイクシステム(以下OTS)は、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムで、2009年より採用しています。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げる、というもので(※3)、ステアリングのボタン操作により、決勝レース中、最大100秒間使用可能です。また、使用回数は任意です。ただし、OTS作動後は100秒間の使用制限が設けられている為、昨年までの1回20秒間を5回使用できる仕様と比べ、使用するタイミングがより重要となり、戦略性が高くなっています。なお、OTS作動中は、ドライバーのヘルメット後方にあるオーバーテイクランプ(OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプも連動して点滅するので、後方のドライバーも視認が可能です。

また、OTS使用可能残時間は、OTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLの識別

- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3) オーバーテイクシステムについて

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 決勝レース中、最大100秒間使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略に多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。